

1 基本的な安全対策の考え方

運動部活動については、部顧問・部活動指導員・外部コーチ（以下、指導者という）、生徒が部活動の意義や本校部活動方針を理解し、部活動に関わる全ての者の協力体制のもと、組織的に取り組むことが重要である。

2 事故防止・安全確保に配慮した適切な指導の徹底

- (1) 不慮の事故を避けるため、生徒の健康状態を把握したうえで、安全に配慮した適切な指導を行う。
また、生徒の行動特性（注意力、把握力、運動能力等）や体質、既往症の経歴についても把握しておく。
- (2) 運動部活動中においては、指導者は生徒の活動に立ち会い、指導することを原則とするが、立ち会えない場合には、他の部の指導者と連携、協力する。また、指導者と生徒との間であらかじめ確認した内容や方法で安全に留意して活動することとする。【報告、連絡、相談の徹底】
- (3) 生徒が練習内容や方法、安全確保のための取り組みを考え、理解しておくことが出来るように事前に指導すること。

3 事故発生の未然防止

(1) 運動・スポーツにおける事故の要因

それぞれの種目特性において、用具を使用したり、激しい身体接触が伴うなど危険と隣り合わせになる場合もある。生徒と指導者は、実施する種目の危険性やそれを防ぐための方法等について、十分理解する必要がある。

また、運動経験の浅い生徒にとって危険を予測したりすることは難しいため、指導者が危険を予測し、安全性を確保しながら、生徒が適切に対処できる能力を育成することが大切である。

(2) 健康管理

健康管理については、定期健康診断の結果及び保護者、生徒からの健康相談等から生徒の身体状況や健康状態を正確に把握することが必要である。

また、生活リズム、栄養、休養及び睡眠などの基本的な生活習慣を望ましいものにするよう健康管理の指導を行い、生徒に対し日頃より自分の健康状態を把握し、身体の調子を自覚し、安全に活動できるように心がけるよう指導することが求められる。

(3) 施設・設備・用具等の安全点検

活動中の事故防止には、施設・設備・用具等の事前の安全点検が必要である。活動にあたっては指導者と生徒がともに施設・設備の安全確認をすることが大切である。安全点検の最終的なねらいは、事後措置にあることから、この措置にあたっては使用現場の変更、立入禁止、使用禁止などの対応を速やかに行い、危険の程度や状態によっては危険表示の明示、修繕または取り替え、危険物の撤去などが早い段階で行われるようにすること。

(4) 安全配慮

部活動を実施する現在の環境や条件等を踏まえ、安全配慮義務を履行する必要がある。

(5) 生徒の危険予見・回避能力の育成

危険を予見し回避するには、指導者だけでなく、生徒自身が安全に関する基礎的・基本的事項を理解し、思考力や判断力を高め、安全についての適切な意思決定や行動選択が出来るようにすることが必要である。

そのためには指導者が安全指導や注意喚起を繰り返す必要がある。それらの活動を通して安全に行うための判断力や身体能力等を育成し、生徒自らが危険を予見・回避することが出来るように指導することが重要である。

4 運動部活動における安全対策状況調査結果を踏まえた安全対策のポイントとヒヤリハット事例

(1) 硬式野球部

予 想 さ れ る 危 険	<ul style="list-style-type: none">・バットスイング時に周りの他の選手にぶつかる危険。・ゲージやネットを運ぶ際の転倒や安全確認不足による事故。・バッティング練習時、ピッチャーやボール拾いの選手に打球がぶつかる危険や、打球が外部に飛んでいき人や物に当たる危険。・ノックの打球が当たる危険。・守備時の野手と野手の交錯。・プレー中における死球などの不慮の怪我。
事 故 防 止 対 策	<ul style="list-style-type: none">・バットを振る際の安全確認の徹底。・道具運搬の際の周囲の安全確認。・バッティングピッチャーを守るL字ネットの配置と頭部を守るヘッドギアの装着。外部に打球が飛ばないようにバッティングゲージの正しい設置。・ボール拾いの選手は必ずバッティング練習を注視。・イレギュラーバウンドを減らすためのグラウンド整備の徹底。・選手同士の交錯、打球の危険を避ける為の「声」の徹底。・強風の日が予想される日は事前にゲージやネットを横倒しにしておく。
ヒ ヤ リ ハ ッ ト	<ul style="list-style-type: none">・竹バットでティーバッティングを行っていた際、打者の手が滑り、バットが前方ネットに飛んで行った。・試合中、打球がベンチに飛び込み、目をそらしていた部員に当たりそうになった。・バッティングゲージが強風に煽られ横倒しになる。

(2) バドミントン

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・シャトル等を踏むことによる怪我。・ラケットを振った際の他生徒の怪我。・夏場の体育館での練習による脱水症状や熱中症。・ネット設置における怪我。
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none">・予備のシャトル等は場所を決めてフロアに置く。・フロアの汗はこまめなモップ掛けでふき取る。・ラケットを振る際には「周囲を確認してから」を徹底する。・換気および水分補給を徹底する。・体育館の熱中症注意指数を常に確認して練習メニューを構成する。・ネット設置および片付けの際にお互いに声掛けをして行う。
ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none">・支柱を持った生徒が、練習中のコートを横切ったことがあり危なかった。・ダブルスのコート内で、お互いのラケットがぶつかることがあった。

(3) 弓道

予想される危険	<p>〈施設・設備に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none">・安土から外れて矢が飛び、通行人に矢があたる。・看的所に矢が入り、矢が人にあたる。・矢取りと行射中の区別ができなくて、矢取り中に矢を離してしまい矢が人にあたる。・安土の盛りが少ないことや凍結していたため、矢が跳ね返り、看的をしている人にあたる。・巻藁が固くなることによって、矢が跳ね返り、人にあたる。・巻藁の後方が壁で、巻藁を外した矢が跳ね返り、人にあたる。・屋外施設のためクマやキツネ、ヘビ、ハチ等の生物が襲ってくる。 <p>〈用具に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none">・弓の表面にひびや深い傷があり、行射中に弓が折れ、人にあたる。・弦が長い、または、中仕掛けがないため、矢飛が不安定となり人にあたる。・胸にポケットやボタンが付いた服で行射したため、弦が引っかかり、思わぬ
---------	---

	<p>方向に矢が飛び人にあたる。</p> <p>〈活動全般に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓を張るとき、弓張り板から弓の末弭が外れ、他の人にあたる。 ・行射中離れをした右手甲が、近くにいた他人の顔にあたる。 ・射手の間隔が狭く、後ろの射手の弓が前を引く射手の弓と弦の間に入り、矢が思わぬ方向に飛ぶ。 <p>〈巻藁活動に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巻藁の矢を抜いているとき、矢の筈で後方にいた人の顔を突く。
事故防止対策	<p>〈施設・設備に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防矢ネットを設置し、かつ、隙間が無いようにする。 ・看的標示板の隙間を、全面または背面よりアクリル板等適当な材料で防矢板を設置し、隙間をなくす。 ・赤旗を準備する。 ・巻藁の後方に畳みやウレタン等を設置する。 ・クマやキツネ、ヘビ、ハチ等の痕跡を見つけた場合、事務室に報告し、対策をとる。 <p>〈用具に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技前に弓具点検を実施し、異常があった場合は、改善させる。 ・弓にひびや深い傷があるものは使用しない。 ・弦は弓にあった長さに調整し、中仕掛けは、矢や碟にあった太さに調整する ・弓道着やポケットがなくボタンがない運動着等を着用する。 <p>〈活動全般に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲に人がいない時や、人がいない場所で弓を張る。 ・射手には、近づかないようにする。 ・弓が前の射手に届くことがないよう、射手の間隔をとる。 <p>〈巻藁活動に関すること〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後方の確認をおこなってから、矢を抜く。
ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> ・行射中であることに気が付かず、矢取りにはいってしまい、矢があたりそうになった。 ・巻藁を外した矢が跳ね返ってきて、人にあたりそうになった。 ・意図しないときに矢が離れ（暴発）、矢が思わぬ方向に飛んだ。 ・防矢ネットを設置しておらず、施設外に矢が飛んだ。

(4) バasketボール

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・選手同士の激しい身体接触による怪我や脳しんとうが起こる。・ジャンプ時にバランスを崩して着地した際、足首や膝の怪我がおこる。・高温多湿の体育館における練習や試合では、熱中症がおこる。・湿度や汗のため床が濡れ、足をとられ転倒する。
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none">・筋力トレーニングやフィジカルトレーニングにより、激しい接触にも耐えられる身体作りを行う。・両足着地等のバランストレーニングを地道に行い、空中姿勢を保つ。・熱中症アラート点灯時には、練習や試合を控えたり、水分補給や休憩をこまめに取り入れる。・床に汗が付いた場合は、こまめにモップをかけ、コート上の水分を拭き取る
ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none">・入部したばかりの選手が、体格の大きい選手と接触し、吹き飛ばされコートに転んだ。(脳しんとうのおそれを心配したが、今回はなかった。)・夏場の練習で、気分が悪くなった選手がおり、熱中症を心配したが、休養と水分補給、身体冷却を行い、体調が戻った。

(5) ウェイトトレーニング (共通)

予想される危険	<ul style="list-style-type: none">・練習場所の未整理、安全具の未装備 (プレートの左右のバランス確認、プレートが落下しないように留め具でしっかりと固定されているか、ベルトやシューズ、バンテージなど必要な安全具が装着されているか)。・用具の破損や器具の整備不良。・個々の能力以上の練習や誤ったフォームによる事故の発生。・十分な準備運動の不足や基礎基本の習得不足による怪我のリスク。・周囲の安全確認、選手同士の声掛け、意思疎通の怠り。
事故防止対策	<ul style="list-style-type: none">・使用前の器具、用具の点検を十分に行う。・ストレッチ等を練習の前後に必ず行う。・軽い重量からウォーミングアップを行う。・正しいフォームを身に付ける。・使用する器具の安全確認を怠らない。・外したバーベルの整理整頓を行う。・利用者、補助員ともに使用上の決まりを守り、安全を最優先する。・重りをつけたトレーニングは、一人では行わない。・プレートの変更は必ず複数で行う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス、スクワットは両側に補助者がいる。 ・はじめの合図をしたり、回数を数えたりするなど、<u>必ず声を出して行う</u>。
ヒヤリハット	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレスの際、ベンチプレス台のネジが外れており、不安定な状態のまま使用した。 ・20キロのプレートが起き台から落下。 ・バーを運ぶ際に安全確認を怠り、周囲にいたトレーニング中の生徒に当たる場所だった。 ・重りをとる際に一方が早く取ったため、バランスを崩してプレートとシャフトが落下し、足に当たるところだった。 ・ベンチプレスの横を通行した生徒が、行っている生徒にぶつかりバランスを崩した。

5 熱中症防止

「R7 熱中症マニュアル」に準じて、組織的に対応する。

6 事故等が発生した場合の対応

「危機管理マニュアル 3部活動中の事故発生時の対応」に準じて、組織的に迅速に対応する。